

第 2 回 「介護離職の防止は事前準備がカギとなる」

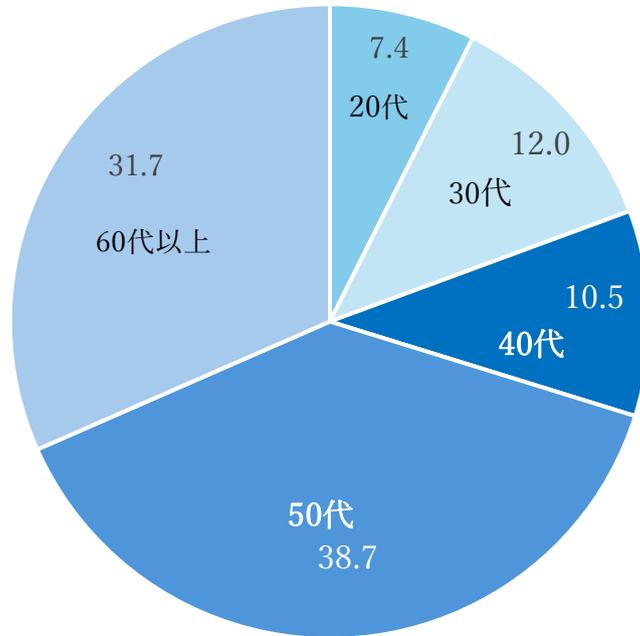
この連載は、ワーク・ライフバランスコンサルタントの桜田陽子が介護離職を防止するための重要なポイントや戦略について紹介しています。私自身、30代で突然の介護と育児のダブルケアに直面し、仕事との両立に悩んだ経験があります。第2回目のテーマは「介護離職の防止は事前準備がカギとなる」です。

【介護離職、40～50代が50%】

総務省の「就業構造基本調査」によれば、働きながら介護をしている人は2022年で365万人、並行して介護離職者数も増えています。介護離職者は高齢の親を介護する40代～50代が50%を占めます。働き盛りの介護離職を防ぐことは、企業にとっても重要課題です。



年代別介護離職割合(2022年)



単位：%

厚生労働省「雇用動向調査」(2022年)を基に作成

まずは、このコラムを読んでいるあなたは、ご両親の健康状態や将来への希望を把握していますか？以下の項目に当てはまる場合はチェックを入れてみましょう！

- 親の年齢が 65 歳以上である
- 最後に親と連絡を取ったのが 1 カ月以上前である
- 親が親しくしている近所の友人を知らない
- 親のかかりつけの医師を知らない
- 最近親の体調面に変化があったかどうか知らない

親と介護に関する話をしたことがない

親が資産をどのように管理しているか知らない

3つ以上チェックがついた方はご両親の情報が少なく、いざ介護が必要という場面で困る可能性が高いため、注意が必要です。

では、組織では、どんな準備を提供できるとよいかを考えていきましょう。

■事前準備の重要性

従業員が介護の負担を抱えた際、適切なサポートや措置がなければ、離職を余儀なくされる可能性が高まります。そのため、事前に介護に関する情報やサポート体制を整備し、従業員が介護と仕事を両立できるように準備することが重要です。事前の準備が整っていれば、従業員は安心して介護と仕事を両立し、離職を回避することができます。

①自社の制度や情報を集約する「ガイドブック」や「情報サイト」

企業では、従業員のご家族が介護を必要とする場合にどのようなサポートを受けられるかを明確に示す必要があります。そのため、自社の介護支援制度や情報をまとめた「介護ガイドブック」を作成することが有効です。このガイドブックには、介護休業制度の利用方法や介護サービスの情報、相談窓口の連絡先などを記載します。介護の可能性を感じている人が仕事と介護の両立をイメージしやすくなるよう、本やインターネット検索では得られない自社の情報も載せられるとよいでしょう。

私が「介護ガイドブック」の作成を支援した企業では、どんな目的や思いがあって「介護ガイドブック」を作成したのかを伝える経営者のメッセージを載せたり、介護休暇や介護休業を取得した社員のインタビュー記事を載せたりすることがあります。

冊子タイプの「介護ガイドブック」のメリットは、自宅に持ち帰って、家族も読んで、情報共有しやすいという点です。一方、社内の「オンラインサイト」や「イントラネット」がある場合には、わかりやすく介護に関する情報を整理して掲示すると、従業員がいつでも情報にアクセスできる点がメリットです。また、冊子タイプよりも、法律の改正や自社の制度が変わった際の情報の更新が容易です。自社の状況に合わせて選びましょう。

②「介護と仕事の両立セミナー」

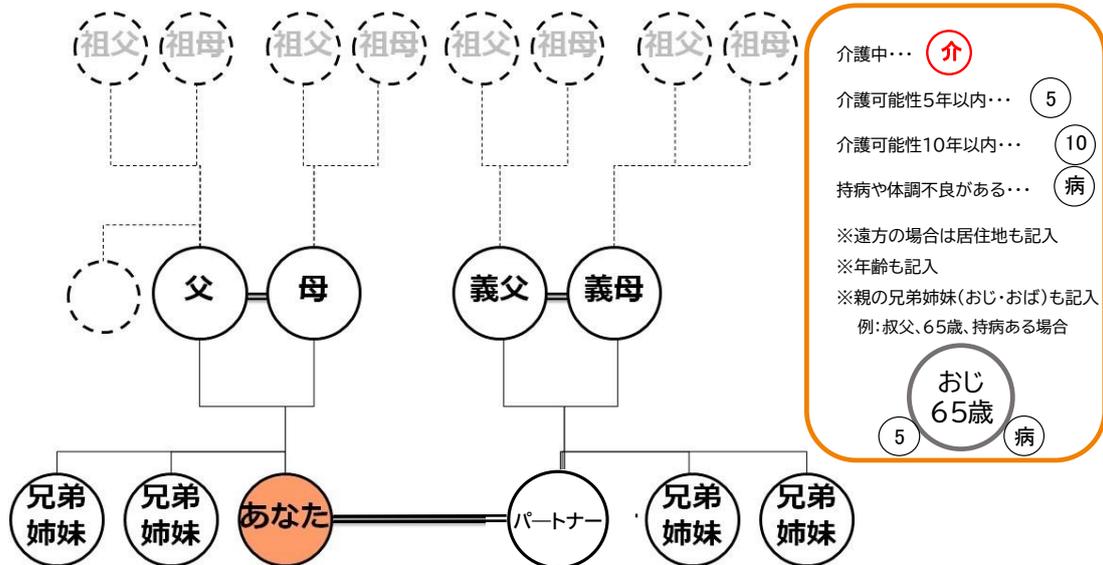
育児については、「育児と仕事の両立セミナー」、「男性育休セミナー」、「育休明け復職セミナー」などを実施する企業が珍しくなくなりましたが、介護に関してもまとめて従業員へ情報提供する企業が増えています。新任管理職研修のプログラムの1コマとしたり、年次研修に取入れたりする組織も増えています。

従業員が自身や家族が介護を必要とする可能性を理解することが重要です。私が実施する「介護と仕事の両立セミナー」で好評な、従業員に家族の健康状態や介護の必要性を可視化するための「家系図シート」をご紹介します。このシートには、従業員自身や家族の健康状態、年齢、介護が必要とされる可能性などを記入し、シート作成を通じて、従業員は将来の介護ニーズを具体的に把握し、介護と仕事の両立に備えることができます。自分が介護に関わる可能性が一目瞭然に可視化できるものですので、自社の「介護と仕事の両立セミナー」等で取入れてみてください。

あなたが介護に携わる可能性



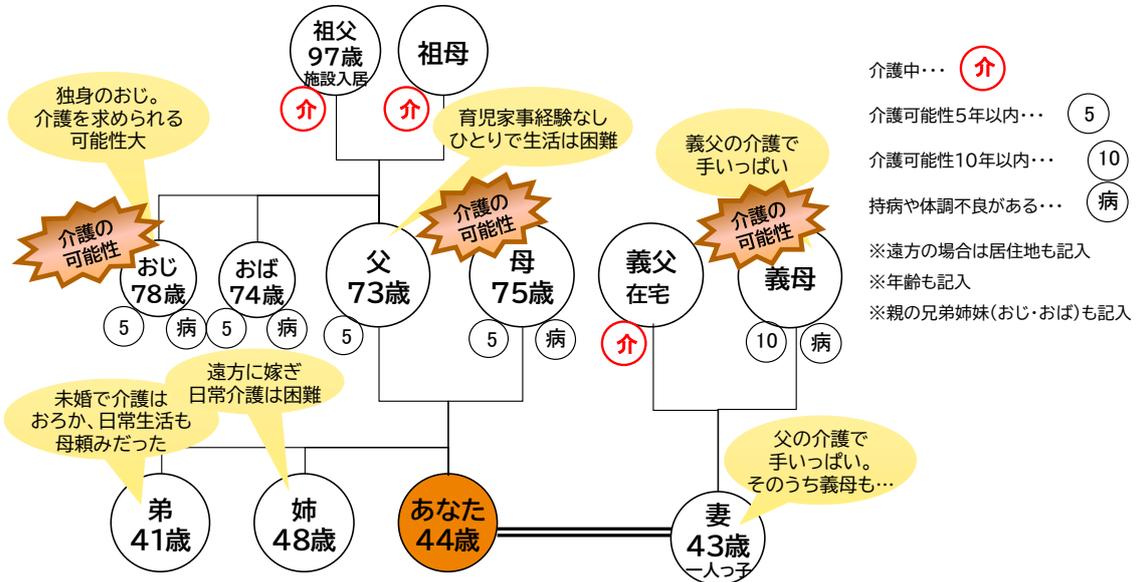
「家系図シート」を使って、あなたの親戚が介護が必要になった場合にあなたが介護に携わる可能性を「見える化」しましょう。



使い方:

- 1、机上に紙をご用意ください。
- 2、上記のように、ご自身の情報を記入していきます。
- 3、右側の枠内を参考に、各人の状況を書き込んでいきます。年齢、遠距離の場合は居住地、体調がわかれば、体調や病状等を書き加えていきます。
- 4、記入が終わったら、シートを眺めて介護の可能性を改めて考えましょう。

【記入例】ワークシート



自分も「誰かの介護をするかもしれない」どころではなく、2人以上の介護をする可能性が充分にあることがわかります。

記入例をご覧くださいと、予想していた母の介護とそれに伴って父や弟の生活が立ち行かなくなる可能性があることや、義母の介護の可能性だけでなく、想像していなかった親戚のおじの介護の可能性が見えてきました。自分も誰かの介護をするかもしれないというレベルで想像していたことが、実際に記入することで、2人以上の介護をするかもしれないことがわかります。

子育てと介護を両立する「ダブルケア」を行う人は約 29.4 万人と推計され、年々増えています。(2024 年 1 月 22 日毎日新聞より)

どんな職場だったら、介護やダブルケアをしながら仕事を続けられるのか？を次回は考えます。情報共有を上手に進め、その人しかできない仕事を減らしていくことがカギとなります。そのために、各人のスキルを見える化し、育成計画に役立つ「スキルマップ」を次回はご紹介しますので、楽しみに。

株式会社ワーク・ライフバランス
ワーク・ライフバランスコンサルタント

桜田 陽子

WS2024-239(2024. 5.21)